

# 2015 年度 事業報告書

特定非営利活動法人NIED・国際理解教育センター

## 1 事業実施の概略

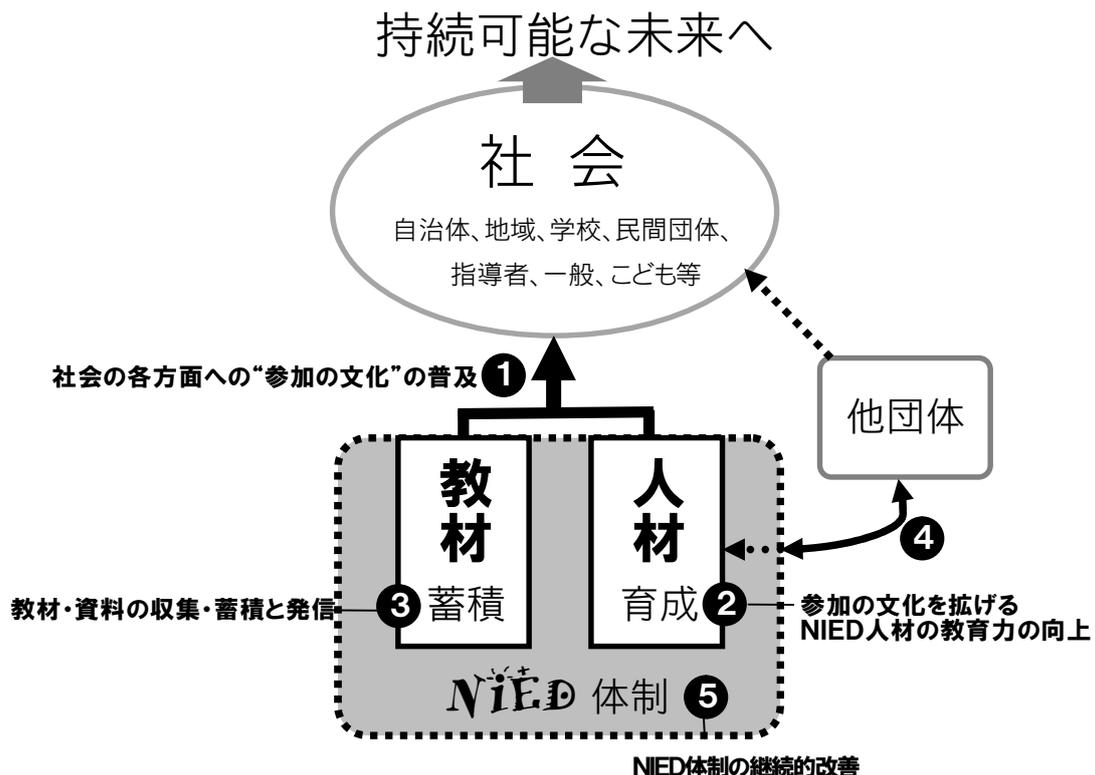
### (1) NIEDのミッション

お互いから学び合う力、参加する力、共働して創り出す力を育むための場と方法を提供し、市民一人ひとりが個別に持つ能力と持ち味を最大限に活かし、自分自身と自分たちの暮らす地域や地球に心を配り、参加と対話を通して環境や人権など様々な課題を解決していくという“参加の文化”を拡げ、持続可能な未来を築く。

### (2) ミッション実現のための方針

NIEDのミッション実現のために、次の5つの方針に従い、事業を行った。

方針	解説
① 社会の各方面への“参加の文化”の普及	NIEDが持つ人材と教材を活かし、社会の各方面に対して、お互いから学び合う力、参加する力、共働して創り出す力を育むための場と方法を提供する。
② 参加の文化を拡げるNIED人材の教育力の向上	NIEDのミッションの具現化を担う人材である、ワークショップを進行するファシリテーター、プロセス全体をマネジメントするコーディネーターを、育成する。
③ 教材・資料の収集・蓄積と発信	NIEDメンバーの経験知、関係団体や学識者の先行知見を収集・整理し、BQOE(Better Quality of Education)のための教材として、蓄積、プログラム開発、ワークショップや教育教材提供を通して発信を行う。
④ 他団体との理念の共有による参加の文化の拡大	東海地方を中心として、他団体との顔の見える関係の中から、参加の文化の共通理念を共有することを通して、参加の文化を広める。
⑤ NIED体制の継続的改善	上記の方針を実現するために、NIEDの運営方法やシステムを絶えず点検・評価し、より良くする。



### (3) ミッション実現のための方針に対する 2015 年度の総括

#### ① 社会の各方面への“参加の文化”の普及

**指標による総括** 2015 年度に行った 43 の業務を、概況、テーマ、地域、主催者、ワークショップの時間数、ファシリテーター数の指標で評価した。

#### <2015 年度の業務の概況>

◇参加の文化を拓げる指標の結果は下表のとおりである。全体的な傾向としては、業務数は昨年度と変わらないが、ワークショップ（WS）提供日数、WS提供時間、WS参加者数、延べ参加者数のいずれも減少しているものの、2011～2013 年度の実績からは増えている。なお、昨年度までは市民参加の延長線上で支援した大人数が集まるイベントの人数をWS参加者数に含めていたが、本年度からは計上しないこととした影響もある。新規依頼数は 18 件と比較的多く、指導者研修率は約 2／3 を保った。

指標名	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
業務数	34	32	31	43	<b>43</b>
WS提供日数	128	147	137	181	<b>169</b>
WS提供時間	397	432	409	536	<b>481</b>
WS参加者数	1,774	1,680	1,383	1,985	<b>1,631</b>
延べ参加者数	3,582	3,444	2,772	3,926	<b>3,292</b>
新規業務数	17	11	13	20	<b>18</b>
新規業務率	50%	34%	42%	47%	<b>42%</b>
継続実施率	63%	63%	56%	74%	<b>58%</b>
指導者研修率	59%	59%	58%	63%	<b>63%</b>

#### <業務のテーマ> T 講座、月夜場を除く

◇国際理解系（国際交流、多文化共生を含む）が 16 件と最も多く、次いで人権系（セルフエスティーム・コミュニケーション・子どもの参画を含む）が 11 件と多い。環境系は、ESD ユネスコ世界会議あいちなごやのあった昨年度対比で大きく減少し 2 件となった。その一方で、アクティブ・ラーニングの学校への導入が言われ始めた影響もあり、まちづくり・団体支援系（ファシリテーションを含む）が 12 件と増えた。

テーマ	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
国際理解系	16 件	16 件	12 件	13 件	<b>16 件</b>
人権系	10 件	4 件	8 件	12 件	<b>11 件</b>
環境系	2 件	4 件	5 件	10 件	<b>2 件</b>
まちづくり・団体支援系	4 件	6 件	5 件	7 件	<b>12 件</b>

### <業務を行った地域>

◇愛知県が31件と最多で、次いで、岐阜・三重・静岡県が6件、香川・徳島・高知県3件、その他遠県等が3件となった。

地域	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
愛知県	23件	22件	22件	33件	<b>31件</b>
岐阜・三重・静岡県	6件 [1, 2, 3]	6件 [2, 3, 1]	7件 [4, 2, 1]	5件 [2, 3, 0]	<b>6件</b> [3, 3, 0]
香川・徳島・高知県	2件 [1, 1, 0]	2件 [1, 1, 0]	2件 [1, 1, 0]	5件 [3, 1, 1]	<b>3件</b> [2, 0, 1]
その他遠県等	3件 群馬、長野、大阪	2件 京都、長野	0件 -	0件 -	<b>3件</b> 北海道、沖縄、岡山

### <業務の主催者>

◇最も多い業務の主催者は、教育団体系（教育委員会や学校など）が最も多く18件、次いでNPO（自主講座を含む）が12件、自治体系（地方自治体や地域国際化協会など）が9件、JICAが4件であった。前年度比では、教育団体系が5件、JICAが2件増え、自治体系が7件減った。

主催者	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
教育団体系	15件	8件	10件	13件	<b>18件</b>
NPO	6件	13件	11件	12件	<b>12件</b>
自治体系	10件	8件	8件	16件	<b>9件</b>
JICA	3件	2件	2件	2件	<b>4件</b>
その他民間団体	0件	0件	0件	0件	<b>0件</b>

### <1業務あたりのワークショップの時間>

◇3～4時間が14件と最も多く、次いで12時間超が12件、3時間未満が8件などであった。昨年度比では、短時間系（4時間以下）が7件増え、中時間系（4.5～12時間）が9件減った。これはファシリテーションを学ぶ短時間の学校でのワークショップが増え、午前・午後に跨がる依頼あるいは2日間以上連続講座の依頼が減ったことが反映している。長時間系（12時間超）は変わらずであった。

業務あたりのWS時間	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
3時間未満	12件	9件	6件	3件	<b>8件</b>
3～4時間	4件	2件	11件	12件	<b>14件</b>
4.5～6時間	4件	6件	1件	10件	<b>4件</b>
6.5～12時間	4件	5件	5件	6件	<b>3件</b>
12時間超	10件	10件	8件	12件	<b>12件</b>

<依頼ファシリテーター数、時間(担当)>

◇依頼ファシリテーター数(複数回講座でも1人で担う場合は1人として計上)は、50人と、過去5年間の平均的な依頼数となっている。

◇代表の請負率(代表率)をみると60%であり、過去5年間では最も高い割合となっている。研究員の請負率は24%、研究員補等は16%であった。

ファシリテーター		2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
代表	伊沢	26	19	23	28	30
研究員	平野	4	6	2	8	5
	伴	2	3	3	6	2
	茅谷	2	1	2	2	1
	久世		1	2	2	1
	川合	3	4	6	1	3
	滝	1	2	1	1	
	山田	5	1	2	1	
研究員補等	吉岡	1				1
	坪井	1	1	1		
	堀川	3	2	3	3	2
	永谷	1	1	3	1	1
	中西あ	1	1	1		
	山田裕		1			
	奥田		3	1		
	守屋			1	1	
	菱川				1	1
	鉄井				1	1
	田口					2
合計		50	46	51	56	50
代表率		52%	41%	45%	50%	60%
研究員補等数		17	18	18	21	12
同上率		34%	39%	35%	38%	24%
研究員補等数		7	9	10	7	8
同上率		14%	20%	20%	13%	16%
備考 (複数F依頼)		JICA(3) 愛知学院(4) 中京大(3) 三重環境(2)	JICA(3) 愛知学院(2) 中京大(3) NANGOC(2) 三重環境(2) 春日小(3) 小幡小(3)	JICA(3) 愛知学院(2) 中京大(3) NANGOC(4) 三重環境(2) 小幡小(3) 国理セミナー(3)	JICA(3) 愛知学院(2) 中京大(4) NANGOC(2) 三重環境(2) 小幡小(3) 国理セミナー(3)	JICA(3) 中京大(4) 三重環境(2) 小幡小(3)

注1: 自主講座、打合せ会議、市民主体のイベント支援に関わるのファシリテーターは除いた。

注2: 伊沢分のうち、JICA開発教育指導者研修(実践編)と教師海外研修国内研修は2人分、刈谷市3つのプロジェクトは3人分とした。

**手だてに対する総括** 事業計画で挙げられた具体的な手だてについての成果と課題は次のとおりである。

体制や仕組み	具体的手だて	総括
現状の受託業務実施体制の維持 ＜担当:事務局＞	◇各依頼業務のミッションやニーズに応えつつ、国際理解教育のテーマや参加型スキルを基に、参加の文化を広めるため、現在の受託業務実施体制(代表と事務局長による主な業務の実施)を維持する。	◇前述のP2～4のとおり、受託業務の実施体制を維持しながら、依頼に応えることができた。
受託業務の営業および実施体制の検討 ＜理事会＞	◇今後、より参加の文化を広げるのであれば、NIEDとしての国際理解教育、参加型、まちづくりの理論やスキルを体系的に構築し、それをベースに、自主講座の充実や、助成金を含めた受託営業等を行う必要があるという認識のもと、中長期的な視点に立ち、現状の有給専従2名の事務局体制の見直しも含めて、そのあり方について検討する。	◆NIED のビジョン・ミッション・バリューの再構築とともに、必要な事業展開を構想しつつ、必要な営業および実施体制について引き続き検討する必要がある。

## ② 参加の文化を広げるNIED人材の教育力の向上

**手だてに対する総括** 事業計画で挙げられた具体的な手だてについての成果と課題は次のとおりである。

体制や仕組み	具体的手だて	総括
【ステップ1】 ～国際理解教育講座 テーマ編 (T講座) ＜担当:久世＞	◇NIEDが実践・推進する国際理解教育を広く普及し、持続可能な未来を築く人材の育成を図るため、人権、環境、共生、平和などの国際理解教育のテーマについて学ぶ場として、1回6時間の自主講座を数回、実施する。 ※ステップ1は、原則としてT講座のテーマを3つ以上受講したことが条件。	◇24人(延べ44人)の参加者を得て、国際理解教育の様々なテーマ(環境・人権・セルフエスティーム・平和)について講座を行い、テーマごとに参加者とともに、学びを深めることができた。 ◇うち NIED メンバー(新入会者を除く)は、9人(延べ17人)が参加し、NIED 人材の教育力向上に資することができた。 ◆参加者数は、回によって6人～15人とばらつきがあり、各回10名以上の参加が学びあいの観点からも望まれる。
【ステップ2】 ～国際理解教育講座 ファシリテーター編 (F講座) ＜担当:伊沢＞	◇NIEDが実践・推進する国際理解教育を広く普及し、国際理解教育の指導者の育成を図るため、わたし・あなた・みんなに関わる力の育成、参加型のファシリテーションのスキル、参加型のプログラムづくりのスキルについて学ぶ場として、1回6時間の自主講座を3回実施する。 ※ステップ2は、原則として同一年度内にF講座すべて受講したことが条件。	◇5月と3月の2期、各3回シリーズで開催し、参加者は40人(延べ60人)、うちNIEDメンバー20人であった。2期とも参加した参加者はNIEDメンバー2人のみで、2期開催でもバランスよく参加者を集めることができた。 ◇5月の講座は「ESDの10年が終わってもESDはここからも続く、むしろここからが本番である」というメッセージを込め「わたしから始まるESD」と銘打ち、気づきのアクティビティと築きの手法、プログラムの作り方、ファシリテーションのポイントについて学びあうことができた。 ◇3月の講座は、まちづくり系、会議系、教育系などファシリテーションの活用場所は多岐に渡るが、どの場にも関わってきたNIEDの理念「参加を文化に！」「オモイをカタチに！」をキーとして、人権、環境、平和が守られる持続可能な社会を築くための手立てを多様な視点から考え、ファシリテーターの共通基盤としてシェアすることができた。 ◆本年度2期開催したのは、前年度開催できなかったためであるが、ニーズや内容に応じて2期開催の検討も考えられる。

体制や仕組み	具体的手だて	総括
<p><b>【ステップ3-1】</b>  <b>NIED寄り合い</b>            &lt;担当:久世・滝&gt;</p>	<p>◇NIEDファシリテーター相互のファシリテーションフォローアップの場として、わたし・あなた・みんなに関わる力を育てるアクティビティ体験、国際理解教育のテーマに関わるアクティビティ体験、その他NIED人材の教育力向上に資する活動を、NIED寄り合いとして、関係プロジェクト及びNIEDメンバー有志により開催できるようにする。</p> <p>※ステップ3は、NIED寄り合いに3回以上参加し、うち1回以上NIED寄り合いでファシリテーターとしてアクティビティを2時間以上提供することが条件</p>	<p>◇4 回行われたT講座と連動し、各講座の1ヶ月前にT講座検討寄り合いを行った。講座の担当ファシリテーターが作成したプログラムを寄り合い参加者全員で検討したり、実際に予定されているアクティビティを経験したりしながら、研鑽に励むことができた。</p> <p>◇7 回行われた SE ラボを寄り合いとして開催した。毎回5名～8名ほどの参加で、寄り合いとしてNIED人材の教育力向上に年間を通しての貢献ができたと言える。</p> <p>◆T講座、SE ラボともに、関係メンバー以外の参加が少なく、すべての会員を対象に開催されているというアピールをさらに進める必要がある。</p>
<p><b>【ステップ3-2】</b>  <b>わたし・あなた・みんなプロジェクト</b>            &lt;担当:滝&gt;</p>	<p>◇自主プロジェクトとして、「わたし(セルフエスティーム)・あなた(コミュニケーション)・みんな(市民性・参加型)」に関するアクティビティの研究、体験を行うことにより、NIED ファシリテーターとしての共通基盤強化とスキルアップの機会を設ける。</p> <p>※本自主プロジェクトへの出席は、ステップ3の「NIED寄り合い」への参加と見なす。</p>	<p>◇7 回の SE ラボ開催に加え、SE ラボとして T 講座への参加をしたことにより、T 講座と SE ラボの 2 つの自主プロジェクトが相互に連携できたことが大きな価値である。</p> <p>◇これは、SE ラボにとっては、ラボという半ば閉じられた場で交わされてきた研究課題を T 講座として一般向けに披露することにより、モニター的な場を得たと言える。</p> <p>◇T 講座プロジェクトにとっては、SE ラボとの連携が T 講座全体に貢献したとの評価をいただけるようになる必要があり、そういう意味では、具体的で客観的で、しかも短期の活動目標の場を得たとも言え、今後も連携していくことが望まれる。</p>
<p><b>【ステップ3b】</b>  <b>IVY(アイビー)制度</b>            &lt;担当:事務局&gt;</p>	<p>◇NIEDメンバーが他のNIEDファシリテーターが実施する研修・講座等に行き、実際にワークショップやファシリテートを見て学ぶ機会を作る。            (交通費自己負担、報告書要提出)</p> <p>※IVY制度の利用は、ステップ3の「NIED寄り合い」への参加と同等と見なす。</p>	<p>◇2015 年度の利用は1名1業務であった。</p> <p>◆会員アンケートによると、「よく知っている」17 人(47%)、「聞いたがことはある」12 人(33%)、「聞いたこともない」7 人(19%)となっている。これに対し、「利用したい」25 人(69%)と利用意向は高く、実際の利用とのギャップを埋めることが課題である。</p>

体制や仕組み	具体的手だて	総括
<p><b>【ステップ4】</b>  <b>国際理解教育</b>  <b>T講座</b>  <b>プロジェクト</b>            &lt;担当:久世&gt;</p>	<p>◇上記1～3のステップをクリアしたメンバーが、メンターとしての研究員等とともにT講座のメイキング、ファシリテーターを行う経験及びふりかえりを通して、ファシリテーターとしての意識と実践力、プログラムづくりのスキルを学ぶ機会を作る。</p> <p>◇本プロジェクトの「メイキング寄り合い」への出席は、ステップ3の「NIED寄り合い」への参加と見なす。</p>	<p>◇5月に担当理事、各回の担当ファシリテーター6人(うち初担当1人)および担当研究員でプロジェクトチームを立ち上げた。プログラム・メイキングの基礎をキックオフ・ミーティングで行い、その後担当ファシリテーターは担当研究員と共に複数回のミーティングを重ねてプログラムを練り上げた。本番1ヶ月前にはプログラム検討寄り合いを行い、プロジェクトメンバーおよび寄り合い参加者からのアドバイスを受けながらさらにプログラムの練り込みを行った。当日は6時間に渡るワークショップを行い、外部参加者に対してファシリテーションを実際に行うという経験値を得ることが出来た。また講座終了後にすぐに振り返り会を行い、「よかったところ」「さらに良くなるための改善点」を中心に話し合いを行い、スキルアップを行うことができた。</p> <p>◇T講座全体を通して実際にファシリテーターとして経験値を増したメンバーのみならず、担当研究員や講座・検討寄り合いに参加したNIEDメンバー全員の教育力向上を図ることができた。</p> <p>◆NIEDのプログラム、ファシリテーションをよりよく提供しつづけるために、T講座のプログラムのあり方、メイキング体制について、引き続き検討していく必要がある。</p>
<p><b>【ステップ5】</b>  <b>NIEDファシリテーター</b>  <b>制度</b>  <b>(研究員、研究員補、</b>  <b>T講座F経験者)</b>            &lt;担当:事務局&gt;</p>	<p>◇受託・派遣事業のうち、複数人数を必要とするもの、代表の都合が付かないもの、地域に根ざした事業でその地域に住むファシリテーターが実施した方が効果的と考えられるものに対し、NIED内部で人材育成した「研究員等」を派遣する。</p> <p>◇条件が許す範囲で、T講座F経験者、研究員補がファシリテーターを務められるように、一般向けの講座の受託も行っていく。</p>	<p>◇新たに研究員候補等1人が、受託・派遣事業を担うことができた。</p> <p>◇新たに研究員候補1人が、指導者研修を担い、研究員となった。</p> <p>◆代表以外がファシリテーターを担う割合が60%と、昨年度よりも高くなった。バランスよく研究員制度を機能させる必要がある。</p> <p>◆特定の人に偏りがちとなっている現状を打破する必要がある。</p> <p>◆研究員候補が研究員になるため指導者研修派遣機会の作り方を検討する必要がある。</p>
<p><b>NIEDメンバーへの</b>  <b>意向調査</b>            &lt;担当:事務局&gt;</p>	<p>◇定期的に、NIEDメンバーの上記のNIEDファシリテーターへのステップに対するニーズを把握し、計画的かつ効果的な人材育成や教育力向上に役立てる。</p>	<p>◇2016年1月に、全会員を対象に、「NIEDの会員である理由」「対外的なファシリテーター請負意向」「NIEDの自主事業のファシリテーター請負意向」「IVY制度の利用意向」、「上記質問に関する課題や提案」その他についてアンケートを実施し、88%の回答を得た。</p> <p>◆アンケート結果を受けた具体的な取り組みを検討していく必要がある。</p>

### ③ 教材・資料の収集・蓄積と発信

手だてに対する総括 事業計画で挙げられた具体的な手だてについての成果と課題は次のとおりである。

体制や仕組み	具体的手だて	総括
<p><b>書籍管理プロジェクト</b> ＜担当:伴＞</p>	<p>◇有償のプロジェクト担当を配置し、これまで収集した全ての書籍や資料のデータベース化を行い、系統的かつ実用可能な状態（開架・閉架の区別、新規購入書籍の配架スペースの確保等）に整理し、貸し出しルールを構築する。</p> <p>◇NIEDが持つ書籍・資料などをウェブ上で紹介や検索できるシステムを再構築し、NIEDメンバーが閲覧できるように周知する。</p>	<p>◇「書籍貸出管理表」を作成し、貸出日・本のタイトル・氏名・返却日（貸出期間は1か月とする）を記入する。2か月ごとに貸出状況を把握し、会員と共有する。今年度は8人から24冊の利用があった。</p> <p>◇書籍紹介として「書籍背表紙写真データ」を共有した。</p> <p>◆新しく購入した書籍の写真データを随時共有できるようにすることをはじめとして、いかに蔵書を会員の教育力向上に役立てるかについて考えていく必要がある。</p>
<p><b>NIED実績成果共有システム</b> ＜担当:事務局＞</p>	<p>◇NIED自主講座の記録、NIEDの受託業務の記録、成果物など、NIEDファシリテーターをめざすメンバーに有益・有効な教材・資料を共有するために、教材・資料の共有基準づくりと Dropbox「NIED-ShareBox-2」への格納を図る。</p>	<p>◇実績成果に関わる情報ボックス「NIED-ShareBox-2」フォルダに、過去のT講座の記録等を整理・格納することができた。</p> <p>◇受託業務への派遣される NIED ファシリテーターのニーズに応じて、過去のプログラムや教材を提供した。</p> <p>◆情報ボックスの認知度と活用度の向上について検討する必要がある。</p>
<p><b>わたし・あなた・みんなプロジェクト</b> <b>SEテキストの作成</b> ＜担当:滝＞</p>	<p>◇既成のセルフエスティームを高める手法を各種書籍・文献から研究し、重要かつ効果的と思われる情報やアクティビティをピックアップし、NIED寄り合いでの提供・検証しながら、NIEDのオリジナルテキスト作成に向けて継続的な活動を行う。</p>	<p>◆テキストの作成というプロジェクトの目標そのものにおいては、アクティビティをピックアップする作業に想像以上に時間がかかり、プロジェクトが2年を経過したところで未だテキストの様式等、具体的なイメージが掴めていない。</p> <p>◇但し、アクティビティをピックアップするために必要なアクティビティ評価の指標づくりに関する議論を通して、プロジェクトメンバーそれぞれのSE理解が深まりつつあり、そのプロセスや議論の成果をテキストに反映させることが大切であることに気づくことができた。</p> <p>◆それがこの2年ラボの成果だとして原稿化することを16年度の目標とし、それをラボの活動意義として団体内外に発信していく土台としていく。</p>
<p><b>ホームページ・広報プロジェクト</b> ＜担当:川合＞</p>	<p>◇NIEDの理念、実績を、NIED ウェブサイト、NIED ブログ、NIED フェイスブックページを通して、引き続き発信する。特に、NIEDの特筆すべき他にインパクトを与えられる実績を積極的に掲載する。</p> <p>◇NIED紹介リーフレットの更新・増刷について検討する。</p>	<p>◇NIED ブログ、NIED フェイスブックページに、NIEDの活動実績等を42件更新することができた。</p> <p>◆どこまで積極的に更新していくか、一定の基準づくりと手続きを定める必要がある。</p> <p>◆残部僅かなため、NIEDリーフレットの更新等について引き続き、検討する必要がある。</p>

#### ④ 他団体との理念の共有による参加の文化の拡大

**手だてに対する総括** 事業計画で挙げられた具体的な手だてについての成果と課題は次のとおりである。

体制や仕組み	具体的手だて	総括
<p><b>国際理解教育セミナー In なごやふりかえり会</b> ＜担当:伊沢＞</p>	<p>◇昨年度の5団体の協働のあり方についての議論を発展させて、今後のより良い協働やセミナー等につなげていくために、実行委員会の中で NIED が率先して、参加の文化の理念を共有しながら、提案、会議ファシリテートを行うよう努める。</p>	<p>◇「当初の目標を達成することができた」と評価された昨年度の国際理解教育セミナーin なごやを機に、一度立ち止まり、14年間に渡る協働と国理セミナーの意義・成果・課題についてふりかえり、共通の経験知とするため、5者による全8回のふりかえり会を、NIED のファシリテートで行った。</p> <p>◇成果としては、広く一般の人々に社会的課題について知り・気づく機会を提供し続けることができ、ファシリテーターという言葉や内容の認知度アップのために貢献できたと確信を持ったこと。そして、連携してもしなくても、今後の共通のビジョンとして、「①気づき行動する人の育成、②人をつなぎ連携するネットワークの構築、③認め支え合う社会の基盤づくり」を打ち出し共有できたこと、である。</p>
<p><b>本山共同事務所を 拠点した協働 「月夜場@本山」</b> ＜担当:川合＞</p>	<p>◇この地域のNPO、営義企業、志を持った個人などが、出会い、知り合い、対話し、新しい文化や価値を創造あるいは心踊らせ・心癒やせる居場所提供等に向けて、入居団体と協働し、本山共同事務所の未利用スペース・時間を活用した「月夜場@本山」を定期開催する。</p>	<p>◇NIED メンバーによる企画として、事務テク交流会1回、新聞部2回、お昼場(子ども・子育て対話)8回、アイスブレイク・ラボ4回を開催し、延べ152人が参加した。</p> <p>◆NIED メンバーによる自由な企画の場として有用であるため、NIED メンバーに呼びかけ、継続・充実させることが望まれる。</p>
<p><b>その他の 連携、協働</b> ＜担当:事務局＞</p>	<p>◇昨年度の名古屋NGOセンターとの「NGO研究会」にかかる協働、ESDユネスコ世界会議あいち・なごやにかかる関連団体との協働、こどもNPOとの「理想の学校プロジェクト」にかかる協働の成果を、次に生かすための連携、協働について検討する。</p> <p>◇他の団体等との連携、協働についても、必要や依頼に応じて、都度検討していく。</p>	<p>◇本年度は、新たな連携・協働はなかった。</p> <p>◆連携・協働自体が目的ではないが、NIED のビジョン・ミッションのため必要な連携・協働については、必要に応じて模索する。</p>

## ⑤ N I E D体制の継続的改善

**手だてに対する総括** 事業計画で挙げられた具体的な手だてについての成果と課題は次のとおりである。

体制や仕組み	具体的手だて	総括
<b>NIED情報共有システム</b> <担当:事務局>	◇会員相互の情報交換、事務局から連絡などのため、会員間メーリングリストを継続的に運用する。 ◇NIEDの動向や翌月のNIEDのスケジュールをメンバー間で共有するため、メーリングリストレーター「NIED 徒然」を、原則月1回発行する。 ◇Dropbox で、NIED の基本的な資料は、全会員向けの「NIED-ShareBox-1」フォルダに随時格納し共有するとともに、デジタルデバインド対策として一般的なウェブからもアクセスできるようなシステムを作る。	◇会員間メーリングリストの年間投稿数は、370 件であった。 ◇NIED 徒然の発行月は、4 月、5 月、6 月、7 月、9 月、11 月、12 月、2 月と 8 号発行した。 ◇「NIED-ShareBox-1」は、一般的なウェブからもアクセスできるようなシステムを作り、周知を図った。 ◆NIED 徒然を定期的に発行するための方策について検討が必要である。
<b>事務所・事務局機能</b> <担当:事務局>	◇NIED事務局の仕事の内容を円滑に進められるよう、有償で事務局長を置く。 ◇NIED 事務所予約システムを全会員で共有し、事務所の利用管理を円滑に行う。	◇事務所予約システムを構築でき、運用も問題なくできた。 ◇携帯電話による受付が円滑にできた。 ◆事務局機能のほとんどを事務局川合が担っており、バックアップ体制や将来的な方向を考えた体制づくりを検討する必要がある。

## 2 事業の実施に関する事項(特定非営利活動に係る事業)

### ● **A. 参加・対話・体験型の研修・講座などに対する相談・ファシリテーター派遣事業**

#### (1) 事業内容

自治体、教育委員会、民間団体などからの依頼により、人権・子ども、ESD・環境、国際理解・多文化共生、まちづくり・ファシリテーションなどをテーマとした参加・対話・体験型講座・研修にファシリテーターの派遣を行った。

#### (2) 開催概要

2015 年度は、合計 31 事業（前年度：22 事業）で、研修等の提供時間は 153.5 時間（前年度：158.5 時間）あった。個別の事業の依頼主／主催、事業名／研修テーマ、実施日時、場所、対象、参加者数、提供時間、ファシリテーター・スタッフなどの詳細は巻末一覧表、収入・支出の内訳は活動計算書類を参照のこと。

(3) 延べ参加者数 1,431 人（前年度：1,361 人）

(4) 収入額 2,148,494 円（昨年度：2,052,632 円）謝金、委託費、交通費等

(5) 支出額 1,344,737 円（昨年度：1,276,127 円）給与・法定福利費 695,423 円、謝金 419,952 円  
 旅費交通費 227,760 円、その他 1,602 円

## ● B. 基礎研修およびファシリテーター養成などの自主講座事業

### (1) 事業内容

主に、人権・環境など国際理解教育の基本テーマを扱うテーマ編、ファシリテーターとしての意識やスキルを高めるファシリテーター編、並びに「月夜場」「お昼場」と題した自由な集まりの講座を自主事業をとして行った。

### (2) 開催概要

2015年度は、合計4事業（前年度：3事業）で、研修等の提供時間は95.5時間（前年度：68時間）であった。個別詳細は巻末一覧表および活動計算書類参照のこと。

(3) 延べ参加者数 256人（前年度：121人）

(4) 収入額 621,600円（昨年度：543,000円）参加費

(5) 支出額 347,778円（昨年度：562,470円）給与・法定福利費216,763円、謝金104,000円  
旅費交通費19,720円、消耗品・その他7,295円

## ● C. 環境や人権などを視点としたまちづくりのプロセス企画・実施事業

### (1) 事業内容

地方自治体などにおける環境や人権を視点としたまちづくりのプロセス・プログラムの企画立案、ファシリテーターとしての支援、記録・報告書作成までの一連の業務を行った。

### (2) 開催概要

2015年度は、合計4事業（前年度：5事業）、研修等の提供時間は178時間（前年度：237.5時間）のワークショップを行った。個別詳細は巻末一覧表および活動計算書類参照のこと。

(3) 延べ参加者数 1,483人（前年度：2,015人）

(4) 収入額 16,473,773円（昨年度：18,426,190円）委託費

(5) 支出額 14,854,801円（昨年度：16,109,592円）給与・法定福利費5,420,792円、  
謝金・外注費5,960,250円、旅費交通費1,577,012円、通信運搬費914,447円、  
印刷製本費772,471円、消耗品・その他209,829円

## ● D. 目的を実現するために必要な調査・研究・情報提供事業

### (1) 事業内容

国際理解教育・開発教育を推進するため、「必要な調査・研究を行う」、「PRする」ことを、研究会方式、実行委員会方式などにより、関係団体と共働するなどして行った。

### (2) 開催概要

2015年度は、4つの事業（前年度：7事業）、研修等の提供時間は54.0時間（前年度：72.0時間）のワークショップなどを行った。個別詳細は巻末一覧表および活動計算書類参照のこと。

(3) 延べ参加者数 122人（前年度：429人）

(4) 収入額 419,200円（昨年度：491,100円）委託費

(5) 支出額 420,585円（昨年度：211,808円）給与・法定福利費131,785円、謝金・外注費277,150円、旅費交通費5,610円、印刷製本費・その他6,040円

### 3 会議の開催に関する事項

(1) 総会

2015年度定期総会

日 時 2015年5月30日(土) 13:45～15:00

場 所 NIED事務所フリースペース

出席者数 正会員総数44人中、本人出席15人、委任状出席22人、合計37人

議 題 (1) 2014年度事業報告(案)及び決算(案)の承認に関する件-----承認  
(2) 2015年度事業計画(案)及び予算(案)の承認に関する件-----承認

(2) 理事会

2015年度は、下表のとおり6回開催した。

回	日時	議題	場所	出席
1	5月24日(日) 10:30～13:00	(1)方針に対する2014年度の総括と2015年度の計画について (2)2014年度の決算と2015年度の予算について	NIED事務所	6人
2	7月5日(日) 10:30～13:00	(1)2015年度業務状況について (2)2015年度事業計画の各進ちよく状況と課題について	NIED事務所	4人
3	9月13日(日) 10:30～13:00	(1)2015年度業務状況について (2)2015年度事業計画の各進ちよく状況と課題について (3)団体としての賛同に対する意思決定方法について (4)事務所の継続に関する問題について	代表自宅	6人 オブザーブ 1人
4	11月8日(日) 13:50～16:30	(1)2015年度業務状況について (2)2015年度事業計画の各進ちよく状況と課題について (3)総会寄り合いについて (4)事務所の継続問題について (5)NIEDの危機管理体制について	NIED事務所	5人
5	12月28日(月) 13:20～15:20	(1)2015年度事業計画の各進ちよく状況と課題について (2)総会寄り合いについて	NIED事務所	4人 オブザーブ 2人
6	3月19日(土) 10:00～13:30	(1)2015年度事業計画の各進ちよく状況と課題について (2)NIEDメンバーへの意向調査結果について (3)総会寄り合いについて (4)理事改選について	NIED事務所	6人 オブザーブ 2人